

**製品名: Elf-5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10403**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	31kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ELF5
別名	ELF5; ESE2; ETS-related transcription factor Elf-5; E74-like factor 5; Epithelium-restricted ESE-1-related Ets factor; Epithelium-specific Ets transcription factor 2; ESE-2
遺伝子 ID	2001.0
SwissProt ID	Q9UKW6
免疫原	抗血清はヒト ELF5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

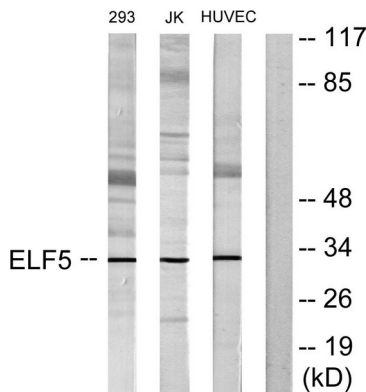
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Ets 転写因子ファミリーの上皮特異的サブクラスのメンバーです。ケラチノサイトの

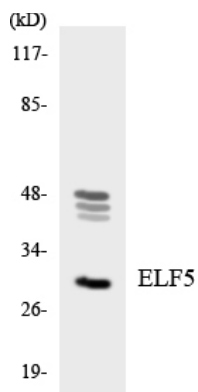
終末分化の後期段階を制御する役割に加えて、唾液腺や前立腺などの腺上皮を含む組織に見られる多くの上皮特異的遺伝子を制御すると考えられます。この遺伝子は、アミノ末端の負の調節ドメインのため、DNAへの親和性が非常に低いです。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが記載されています。[RefSeq提供、2011年7月]、ドメイン：PNTドメインは転写活性化因子として機能します。機能：ケラチノサイトの終末分化の後期段階を制御する役割を果たす可能性のある転写活性化因子。アイソフォーム2は、コンセンサスヌクレオチドコア配列GGA[AT]を含むDNA配列に結合します。SPRR2Aおよび耳下腺特異的PSPプロモーターを転写活性化します。類似性：ETSファミリーに属します。類似性：1つのETS DNA結合ドメインを含みます。類似性：1つのPNT（尖った）ドメインを含みます。組織特異性：上皮細胞含有量の高い組織でのみ発現します。唾液腺、乳腺、腎臓、前立腺で高い発現を示します。胎盤と肺では弱い発現を示します。アイソフォーム1とアイソフォーム2は、異なる組織で異なる発現を示します。腎臓ではアイソフォーム1のみが発現しましたが、前立腺では両方のアイソフォームが発現し、アイソフォーム2のレベルの方が高かったです。発現はケラチノサイトの分化中に上昇します。いくつかの上皮癌細胞株では発現が欠損していました。

## 研究分野

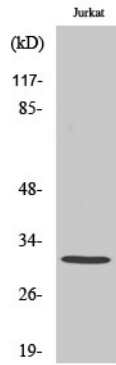
## 画像データ



ELF5抗体を用いたJurkat細胞、293細胞、およびHUVEC細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ELF5抗体を使用したHT-29細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



Elf-5 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタン ブロット分析。